令和6年度(2024年度) 学校評価総括表　　【伊丹市立伊丹特別支援学校】

教育目標	豊かな心、たくましく生きる力
重点目標	①本校の児童生徒の実態に応じた適切な教育課程の編成を行い、教員の指導力を向上し児童生徒一人ひとりの力を伸ばす(教務部、研究部、自立活動部の連携協力の推進)②卒業後の進路や生活を見据え、肢体不自由特別支援学校としての取組の充実と地域への発信の強化③安全で安心な学校づくり④センター的機能の充実⑤意欲とゆとりと愛情が感じられる職場づくり

主要施策	施策目標 基本施策		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	適切な実態把握に基づく、自立活動の充実や類型を意識したカリキュラムマネジメントの推進	(教務:教育課程) 〇これまでの指導・支援の評価や実態把握を踏まえて、PDCAサイクルで個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。 (自立活動) 〇各種相談や研修を活用して児童生徒の実態把握に努め、自立活動の内容の充実と授業改善をはかる。 (研究) 〇クラス研などで、アセスメントチェックリストを活用する。 〇『見て学ぶ』公開授業を実施する。 〇研究全体会を実施する。	〇過去の評価やアセスメントチェックリストを活用し、個別の教育支援計画や個別の指導計画の目標や手立てを検討し、設定することができる。 〇各種相談を活用して自立活動の内容や授業についてクラスで検討し、児童生徒の実態を把握することができる。 〇職朝くんを活用して相談内容を共有することで、自身の知識を広げたり、日々の実践に活用したりすることができる。 〇アセスメントチェックリストを活用し、支援指導について振り返ることができる。 〇題材設定や支援方法について知り、自分の授業づくりに活かす。 〇研究全体会を通して授業を改善することができる。	89.47%	〇検討会などで過去の支援計画や指導計画の評価、アセスメントチェックリスト等を参考にして、次の目標手立てを検討することができた。 〇各種相談を活用して実態把握に努め、自立活動の充実をはかることができた。 〇相談内容を職朝くんで周知し、日々の実践への活用を促すことができた。 〇実態把握の研修は課題が残ったため、今後改善が必要である。 〇クラス研を有効に使い、チェックリストを活用することができた。 〇見て学ぶ授業や、研究全体会での公開授業など全員が見に行くことが難しかった。	〇来年度も継続して取り組んでいく。 〇実態把握については、内容を整理して取り組みやすい様式に改善し、教務と研究、自活が共通のアプローチをできるように検討する。 〇公開日を早めにアナウンスすることを継続して、来年度も実施する。	〇実態把握をしっかりとしなければという意識が職員の中で高まっているように思う。 〇映像を見て、一人一人に合わせて対応してくださっているのがよくわかる。 〇子どもたちのわずかな変化にも気づく目が必要である。 〇4月からまた先生が新しく変わるので、引き継ぎなども大変だとは思うが、基礎基本の部分はおさえながら積み上げていってほしい。 〇職員の和を大切にしながら取り組んでほしい。
		新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	ICT機器の有効な活用とデジタル化の促進	(小学部) 〇日々の学習の中で様々なICT機器に触れる機会を設定する。	〇授業で、VOCA、iPad、スイッチ等様々なICT機器に触れることができる。	94.21%	〇学習の発表の場等でVOCAや薄型スイッチ等様々なICT機器を活用し児童の表出を有効に行うことができた。	〇今後も児童の実態を見ながら、活動の幅を拡げるために、様々なICT機器を使用する場面を設定しICT機器の活用に取り組む。	〇ICT機器の有効な利用を子どもたちの実態に合わせて工夫して取り組んでおられるのがわかった。 〇ICT機器に対するアンテナを高くして、最新の情報など、教員間で共有していってほしい。 〇様々なICT機器があるのことを知ったが、かなりお金がかかるのではないかと思う。 〇ICTはあくまでツールとして用い、それだけに頼らない方法も大切にし、選ぶ力、見る力など、成長に合わせた支援をお願いしたい。 〇どうしても教員によって差ができてしまうと思うので、資質向上に努めてほしい。
				(中学部) 〇生徒個々の実態や活動に応じて、適切なICT機器を選択し、活用の仕方等を支援・指導する。	〇日常生活や学習場面で、iPadやVOCA、ビックマックやスイッチ等を個々に応じて活用することができる。	93.68%	〇生徒の表出をより有効にするためにVOCA等を活用したり、書字の困難さが見られる生徒にiPad等を活用したりすることができた。	〇今後もICT機器を充実させ、個々に応じた活用について考え、取り組めるようにする。	
				(高等部) 〇個々の実態や活動に応じた適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。	〇授業で、VOCA、iPad、棒スイッチなど、適切に取り扱うことができる。	94.21%	〇生徒の実態に応じて各機器を選択し、適切に取り扱うことができた。	〇来年度も継続して取り組み、社会に出た時に役立つ活用方法を考え、適切に取り扱えるように取り組む。	
				(総務:デジタル化の促進　ICT) 〇Excel等のアプリケーションに関する研修の実施や校内で活用されているICT機器のアンケートを実施する。	〇研修終了後のアンケートでMicrosoftのアプリケーションを日常的に使用しようしているの項目で8割以上の結果を得ることができる。	95.79%	〇ExcelとWordを組み合わせた研修(差し込み印刷)を行ったり、使用上の悩みを解決する資料を作成したことで、より日常的に使用しやすい環境にすることができた。	〇今後も定期的に研修を行ったり、使用上の悩みを解決する資料を作成する。	
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	豊かな人間関係の形成とたくましく生きる力の獲得	(小学部) 〇日々の学習や交流学習、校外学習、宿泊学習等で他者との関わりをもつ機会を設定する。	〇それぞれの集団学習の中で、児童が他者と関わることができる。	93.68%	〇よかよかの時間(縦割り)や生活、あそび・しごと等合同の学習の時間、校外学習等で児童同士がやりとりをしたり、協力したりすることができた。	〇今後も日々の学習や校外学習等で児童が他者を意識し関わりがもてるように取り組む。	〇先生たちの豊かな心が子どもたちの豊かな心に反映すると思うので、子どもたちの豊かな心の土壌を作ってあげてほしい。 〇居住地交流は、小学部では活発に行われているが、中学部では希望者が少ないことについて、中学校では難しい面もあると思うが先生の橋渡しも重要になってくると思う。
				(中学部) 〇日々の学習や、宿泊学習、校外学習等の活動で、多くの人との関わりを持てるように設定する。	〇学校内外の多くの人と関わる中で、生徒自らがコミュニケーション力を発揮することができる。	94.74%	〇学習の中に中1～3年の縦割り班を作ったり、アンケート調査や出店企画、買い物学習や出前授業等を行ったりすることで、生徒自らが考え、主体的にやりとりを行うことができた。	〇個々のニーズに応じた環境設定を行い、継続して取り組む。	
				(高等部) 〇日々の学習や交流学習、校外学習、現場施設実習などの活動で、多くの人と関わりを持つ機会を設定する。	〇校内外問わず、生徒自身がコミュニケーション力を発揮し、自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりして、多くの人と関わりを持つことができる。	94.74%	〇校外での活動場面を多く設定することで、より社会参加ができ、多くの人と関わりを持つことができた。	〇今後も継続してコミュニケーション能力の育成、向上に努める。	
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	児童生徒の健康の維持向上や食育の推進	(保安通:校内保健) 〇個々の状況に応じた配慮及び行事に係る健康管理を行う。 〇会議や研修で児童生徒の健康に関する情報共有をし、全職員で共通理解を図る。	〇校内における児童生徒の健康に関する情報共有、学校と医療の連携を図ることができる。 〇日頃の健康管理や緊急対応、安全に行事等を行えるよう、教職員に医師を招いた研修などで啓発を行うことができる。	95.26%	〇校内で情報共有をし、外部の主治医、校医などとも連携できた。 〇児童生徒へ健康教育として外部の講師を招いたり、教職員への啓発として医師数名を招いたりして研修を行った。	〇今後も研修等を企画し、児童生徒が安心安全な学校生活を送れるよう努める。	〇先生たちの意識が高くなってきていると感じる。 〇わからないことを、いつでも何気なく聞けるような環境や雰囲気が大切であると思う。 〇子どもたちの将来のことを考えると性教育も重要であると思うので、高等部までに、ぜひ取り組んでほしい。
				(医療的ケア) 〇医療的ケア安全委員会における情報共有及び協議を通して、安全安心な医療的ケアの実施体制を構築する。	〇看護師や養護教諭、担任等、職員全体の役割分担と連携を円滑にし、協力して医療的ケアを実施することができる。	91.58%	〇医療的ケア児童生徒の情報を共有し、安全安心な医療的ケアを協力して実施する体制について確認した。また、個別性が高く、急を要する事項は、臨時の医療的ケア安全委員会で協議し、対応したが、医療的な根拠に基づく判断について、困難さがあった。	〇個別性が高く、高度な医療的ケアとなるケースについては、児童生徒の主治医の見解の他、協議内容に応じて学校医等に相談し、安全安心な医療的ケアの実施についての助言を求め、総合的に判断できるようにする。	
				(保安通:食育) 〇個々の口腔機能を把握し、適切な食形態や摂食指導の方法を考える。 〇日々の授業や給食を通して、自然の恵みや日本の伝統的な食文化への理解、生産者への感謝の気持ちを育む。	〇保護者や教職員間で連携し、個々の実態や課題を明確にしたうえで、安全な摂食指導を行うことができる。 〇体験的な活動や生産者と関わる機会を設けたり、地場産物や旬の食材を使用した給食を「生きた教材」として活用することができる。	95.26%	〇保護者に調理の対応を聞いて連携を取り、安全に摂食できるよう努めることができた。ただ、ST相談が少ないため、口腔機能と食形態がマッチしているか検討をしたり、教職員の研修の機会を作ったりする等、より安全な給食の時間を取れる対策が取れていなかった。 〇様々な教科で食を題材とした学習が行われていた。お昼の放送を開始した。	〇自立活動部とも連携し、年度初めに教職員の摂食研修の機会を作ることで、資質向上を図ると共に、安全に摂食指導を行うことができるよう取り組む。 〇栄養教諭と教職員が連携し、児童生徒にとってよりよい食に関する指導を計画し、実施する。	
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実		卒業後の進路や生活を見据え自立して社会に参加する力の育成	(教務:キャリア教育) 〇キャリア教育全体計画における児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を踏まえて、教育活動を展開する。	〇各授業の目標や活動と関連する資質・能力を年間指導計画に明記し、実践、評価することができる。	91.58%	〇各授業の目標や活動と関連する資質・能力を年間指導計画に明記し、実践、評価することができた。	〇来年度も継続して取り組んでいく。より一層、定着を図るために来年度の研修等で周知する。	〇進路先を新しく開拓していくことはなかなか難しいことだと思う。 〇就労のことだけでなく、将来、子どもたちが豊かに生活していくことをイメージできるような、グループホーム等へのアクションも考えていけたらと思う。 〇進路について、入学当初から積み上げ、できることを活かした場所へつないでおられるのが素晴らしい。
				(総務:進路) 〇関係諸機関と連携協力し、本校の児童生徒の自己実現につながる進路先を開拓し、進路の選択肢を広げる。	〇個々の適正や希望、課題等を本人・保護者、担任、担当者で共有し、本人・保護者の願いを叶える進路選択・進路決定のための情報を提供することができる。	92.63%	〇進路先等の関係諸機関と一定の連携はでき、理解も得られたが、本校の児童生徒の進路状況には課題がある。重症心身障害児の進路先の確保や重複の肢体不自由児の就労系進路の更なる開拓に取り組む必要がある。	〇引き続き、開拓と連携に努め、本校児童生徒の進路の選択肢を広げる。 積極的に情報提供するとともに、本人・保護者の進路希望を具体的に把握し、情報共有する。	
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実		一歩進んだセンター的機能の充実	(センター的機能) 〇本校の教員がセンター的機能に関わることができるよう学校園等コンサルテーションの同行を実施する。 〇要請のあった学校園の支援体制及び担任に応じて学校園等コンサルテーションを実施する。 〇特別支援教育実践講座(10講座)の実施、運営をする。 〇市内の肢体不自由学級を訪問し、障害の状況や自立活動の指導について確認、助言を行う。	〇事前カンファレンスから参加することで必要な相談業務の流れを知り、コンサルテーションへの理解を深めることができる。 〇コーディネーターと連携し、学校園に応じた助言をすることができる。 〇申し込み方法の工夫、県の研修履歴への登録を行うことで、特別支援教育実践講座の参加者を増やすことができる。 〇市内の肢体不自由学級に連絡をとり訪問、助言を行うことができる。	93.16%	〇コンサルテーションの同行は1件であったが、事前カンファレンスから同席してもらうことで、コンサルテーションへの理解を促すことができた。 〇各校コーディネーターと連携しコンサルテーションにあたることができた。 〇申し込み方法を用紙とGoogleフォームの併用とすることで、各校に申し込みしやすい方法を選択してもらうことができた。県の研修履歴への登録も実施することができた。また、実施時期の希望についてアンケート調査を行った。 〇市内小中の肢体不自由学級を訪問し、観察や助言を実施することができた。	〇コンサルテーションの同行は継続し、センター的機能への理解を深めていきたい。 〇コーディネーターとの連携をより強めるため、今後もフィードバックではコーディネーターの同席を依頼し、共通理解しながら学校園に応じた助言をするよう努める。 〇申し込み方法は今年度の形式を継続する。さらに実践講座の参加者を増やすことができるように、希望の多かった夏季(8月の上旬、下旬)に実践講座を実施する。 〇市内の肢体不自由児に必要な助言	〇センター校による地域支援は人材が大切になってくる。 〇本校の先生たちは、市内のセンター的役割を果たすために、よく頑張っておられると思う。
	教職員の資質向上 ①研修等の充実		人材育成	(研究) 〇昨年度作成した、校内研修実施計画を各部に見直しを依頼し再度作成する。 〇実施状況を取りまとめる。	〇研修を受けて自分の実践に活かすことができる。	88.42%	〇今年度も実施状況をとりまとめた。学校の研究目標に沿った内容を各部にどのように依頼するのかも教育改革委員会などで話し合った。	〇修正がある可能性も鑑み、毎年3ヶ年計画について確認を行う。本校の研究計画に沿ったものと、違うものを別表で表示するなど工夫を行いたい。	〇個人差は得ると思うが先生たちが研修に前向きに取り組まれている。 〇授業実践から学ばれていることが多く、ニーズも具体的であると感じた。 〇研修の内容について、どんな研修をされているのかを保護者にも発信してほしい。 〇他校の研究会への参加などもスキルアップにつながると思うので、積極的な参加をお願いしたい。
教育環境の整備・充実		学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	コミュニティ・スクールを含む、地域と学校の連携・協働体制	(管理職) 〇学校運営協議会で学校の現状や課題について話し合い、地域への発信力を高めると共に、地域に出向いて連携体制の構築を図る。 (総務:オープンスクール) 〇市内小中学校の他、就学前施設や在学中の福祉事業所や卒業後の進路先等の関係者へ案内し、本校の広報活動を行う。	〇学校だよりやホームページの更新により地域に向けて積極的に情報発信をすると共に、学校運営協議会での取り組みをホームページや職員合同研修等により保護者や職員と共有することができる。 〇来校者に実施するアンケートにて、「本校の児童生徒について知ることができた」等の肯定的な意見や感想を得ることができる。	91.58%	〇ホームページの更新を積極的に実践したことで、保護者に学校での子どもたちの様子を理解していただくことができた。学校運営協議会の委員や行政職員にも職員研修会に参加いただくことで、学校の課題等を共有することができた。 〇アンケートにて、「本校の児童生徒について知ることができた」の質問に対して、約90%の肯定的な意見を得ることができた。一方、授業が見えにくい等の環境整備に関する意見もあった。	〇学校の取り組みについて地域や保護者の理解を深めるため、子どもの様子だけでなく、職員研修などについても積極的にホームページや学校だよりなどに掲載していく。 〇児童生徒の集中力に差し支えない範囲で、来校された方々が見えやすいように廊下側のカーテンを開ける等の環境整備を行う。	〇ホームページの更新は、子どもたちの様子がよく分かってありがたい。ただ、表情が見られないのが少し残念。 〇ホームページは、先生方の表情から、楽しい雰囲気が伝わってくる。
		安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	安全・安心な学校づくり	(保安通:危機管理) 〇近隣の機関と連携した福祉避難所開設・運営・引継ぎ等のあり方について研修会等で考察する。 〇学習場面の中に、防災や免災の要素を取り入れ、環境も含めた自他の危機管理意識を高める。 (教育改革) 〇部会や委員会等の働き方改革に関するアイデアを集約し、職員に周知することで、学校全体の働き方改革を推進する。	〇「福祉避難所」の運営に向けての知識や技能を身につけることができる。 〇自他共に安全に過ごせる教室や学校作りを行うことができる。 〇職員周知した働き方改革の内容を、部会や委員会等で実施することができる。	94.74%	〇研修会で、福祉避難所開設に向けた机上訓練を行ったことで、様々な課題や役割分担の大切さを学べた。今後は、福祉避難所開設マニュアルを確認しながらの組を実践していく。 〇教室内のベッドや使用頻度が少ない車椅子に固定ベルトを使用した。ベルトや飛散フィルム等防災グッズは揃っていないため、今後も安全な環境作りに取り組む。 〇働き方改革に関するアイデアの集約、職員への周知を行い、会議時間を明記する等、働き方改革を推進することができた。	〇さらに地域の施設や市教委にも啓発を行い、「自助・共助・公助」を念頭に置いた防災対策に取り組んでいく。 〇今後も働き方改革の推進を実施する。全職員が意識できるように、見える化する等の改善を図る。	〇夏休みの研修で来ていただいた温井先生には、PTAの研修や肢体不自由児・者の研修会にも来ていただいた。大変わかりやすく、有意義な研修であった。 〇働き方改革は、管理職が率先して早く帰るべき。 〇先生たちが、困った時などに相談できるような環境作りに努めてほしい。

学校関係者評価総括
学校は、個々の児童生徒の実態に応じて指導支援の工夫を行っており、教職員もしっかり取り組んでいる。プレゼンテーションで子どもたちの写真を見せてもらい、その様子がよく分かった。進路については、入学当初から積み上げて、できることを活かした場所へ繋いでおられるのが素晴らしい。ただ、就労だけでなく、将来の子どもたちの生活をイメージできるような、グループホーム等へのアクションも考えていってほしい。4月から先生が新しく転任して来られるので、基本をおさえつつも、積み重ねもしていただきたい。医療的ケアの体制や通学保障などの課題、福祉、医療、地域などとの連携などは、今後もより良いものを目指し取り組んでいく必要がある。防災研修は教員と一緒に参加し、子どもの安全について教員とともに考え、講師の先生からは家庭での対応の仕方を学ぶことができた。

次年度に向けた重点的な改善点
〇「チーム伊丹特別」として全職員がそれぞれの役割に応じてすべての子どもたちと関わり育てるという視点で連携協力し教育活動に取り組む。
〇卒業後を見据えて、つけたい力を意識し授業の系統性や指導の積み上げを考慮した授業改善に取り組む。
〇安全安心な学校つくりのため、医療的ケアの体制整備や危機管理体制、防災教育等に取り組む。

自己評価の基準　A:目標を上回った　B:目標どおりに達成できた　C:目標をやや下回った　D:目標を大きく下回った